

世界農業遺産地域における地域活性化の取り組みに関する報告 —韓国の世界農業遺産地域を事例として—

Report on rural revitalization initiatives in GIAHS sites

Cases of GIAHS sites in South Korea

○劉鶴烈* 中島正裕** 松尾茜***

Hagyeol YOU Masahiro NAKAJIMA Akane MATSUO

1 はじめに

韓国では、近年、農村・農業開発方式のパラダイムが変化している。その一つが農村地域に存在する農業農村資源の価値の再認識又は再評価である。このようなパラダイムの変化の下、韓国では2013年より韓国農業遺産(KIAHS)制度を導入した。2020年3月現在、15ヵ所が認定され、その内4ヵ所がFAOにより世界農業遺産(GIAHS)に認定された。認定後、各地では世界農業遺産というブランドと価値を活用した地域活性化のための様々な施策が推進されつつある。

そこで本報では、韓国国内の世界農業遺産地域における地域活性化施策の実態を経済的側面、社会的側面、物理的(インフラ)側面から把握し、その成果と課題点を論じることを目的とした。

2 研究方法と研究対象地の概要

本研究の空間的な範囲は世界農業遺産に認定された韓国の四つの地域に限定する。研究方法としては、2018年度又は2019年度に韓国の農林畜産食品部(中央政府)により行われた四つの世界農業遺産地域におけるモニタリングの結果報告書¹⁾のレビュー(文献調査)と一部の地域については現地に入り、農業遺産担当者へのインタビュー調査を加えた。

本研究の対象である各地域の位置や農業遺産的特徴などは下記の表1の通りである。

Table 1 研究対象地の概要
Table 1 Outlook of case study area

農業遺産システム名	位置	農業遺産的特徴	認定年度
Traditional Irrigation Management System of Gudeuljangnon	全羅南道 莞島郡 (青山島)	- 韓国の伝統的床暖房(オンドル)式の灌漑システム - 独創的な棚田構造(棚田の下部に通水路がある) - 豊富な農業生物多様性	2015年
Jeju Batdam Agricultural System	済州道 全域	- 風が強い地域ならではの伝統的な畑墾(畔)築造技術 - 地域の不利な自然条件を克服した農業システム - 島地域としての独創的な持続可能な農業システム	2015年
Tradition Hadong Tea Agrosystem	慶尚南道 河東郡	- 1,000年以上維持した伝統方式の茶農業システム - 急傾斜地の地形をそのまま活かした環境保全型農業 - 韓国の茶農業の発祥地、在来種の伝統茶遺伝子保有	2017年
Gumsan Tradition Ginseng Agricultural System	忠清南道 錦山郡	- 500年以上の世界最高品質の高麗人参農業の継承 - 持続可能な土地利用システム(独創的輪作システム) - 長期間(約10年)の自然の力に頼る地力回復システム	2018年

3 農業遺産地域における地域活性化への取り組み

3.1 経済的側面からの取り組み

地域経済活性化のために取り組んでいる主な施策としては、FAO(国際連合食糧農業機関)が認定したことを活かすための、農業遺産地域で生産された農産物および特産品などを対象にした各地独自の世界農業遺産ブランド商品の開発がある。また、農業遺産地域を巡る観光プログラムを開発し、来訪者を増やすという観光産業にも力を入れている。しかし、どの地域でも経済的効果が大きいとは言い難い状況にある。

3.2 社会的側面からの取り組み

* 忠南研究院 Chung-Nam Institute
 ** 東京農工大学大学院農学部 Graduated School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology
 *** 京都大学大学院地球環境学舎 Kyoto University Graduate School of Global Environmental Studies
 キーワード: 農業遺産システム, 農業遺産価値, 地域活性化

社会的な側面からみると、各種メディア利用して世界農業遺産に認定されたことを地域内外に知らせることを全ての地域で取組んでいる。そして、各地では地域住民を中心として‘〇〇農業遺産地域住民協議会’を結成し、農業遺産の保全、管理などの活動が行われているが、実際の自主的な住民活動はあまりみられていない。

3.3 物理的側面からの取り組み

四つの地域の物理的な側面での共通点は、中央政府の補助金（世界農業遺産保管理事業など）で地域観光産業を活性化させるための関連施設（展望台、探訪路、展示施設など）の補修または造成をしていることである。例えば、農業遺産探訪路、展示館などがある。

Table 2 地域活性化への取り組み内容
Table 2 Initiatives for rural revitalization

地域	経済的側面	社会的側面	物理的側面
青山島	- 農業遺産ブランド開発（ブランド認定制度なし） - 農業遺産作物のオーナー制度実施 - 農業遺産観光プログラム開発、施行	- 農業遺産観光に地域住民参加（一部） - 各種メディアを利用した広報（国内向け） - 地域住民主導の農業遺産管理活動（活発）	- 農業遺産関連の観光施設造成
濟州	- 農業遺産ブランド開発（ブランド認定制度なし） - 農業遺産関連作物の加工商品開発、販売 - 農業遺産観光プログラム開発、施行	- 農業遺産関連広報活動（国内向け） - 農業遺産写真展開催 - 農業遺産関連住民組織結成（自主的な活動なし）	- 農業遺産関連観光施設造成
河東	- 伝統茶原料を大手企業（スターバックス）の提供 - 農業遺産ブランド開発（ブランド認定制度なし）	- 農業遺産関連広報活動（国内向け） - 農業遺産関連住民組織結成（自主的な活動なし）	- 農業遺産関連観光施設造成
錦山	- 農業遺産観光プログラム開発、施行 - 農業遺産関連作物の販売拡大	- 地域の知名度向上のため広報（国内向け） - 農業遺産関連住民組織結成（自主的な活動なし） - 農業遺産関連住民教育実施	- 農業遺産広報物設置 - 農業遺産探訪路設置 - 農業遺産展示館補修

4 地域活性化への成果と課題

4.1 成果

四つの調査対象地全てにおいて、世界農業遺産に認定されてから2～4年しか経過していないため、経済的な効果について明確に論じるには時期尚早の感は否めない。そうした中で、成果と言えるのは、一部の地域での観光客の増加である。例えば、青山島地域では、世界農業遺産に認定された後、年間平均約6,000名が増えた。なお同地域ではオーナー制度による地域農産物の販売量も増加し、地域農業活性化にも少なからず良い影響を及ぼしている。そして、どの地域も様々な広報活動により、農業遺産地域としての知名度（地域ブランド）が高くなりつつある。また、各地域独特の農業遺産価値を活かした観光プログラムを開発することで、既存のグリーンツーリズムとは異なる新たな農村観光の道を開いたことも、成果のひとつであるといえる。

4.2 課題

前述したように、韓国の世界農業遺産地域では地域活性化のために様々な施策が行われているが、以下のように3つの問題点が挙げられる。

一つ目は、各地で独自の農業遺産ブランド商品を開発・販売しているが、ブランド商品の対象設定、基準設定、ブランド商品管理体制が明確ではない。いわゆる公的機関による農業遺産ブランドを認定する制度までは設けていない。例えば、日本の場合、国東半島（大分県）、大崎（宮城県）地域では世界農業遺産ブランド認定制度が設けられている。二つ目は、多様な方法で農業遺産に認定されたことを知らせるための広報活動を行ってはいるが、殆どが国内（自国民）向けで、海外向けの広報戦略が足りない。英語版の広報誌の発刊や農業遺産関連国際イベントなどを開催するなど海外向けの広報活動が求められる。そして、三つ目は農業遺産の保全、管理などのために結成した農業遺産関連住民組織の活動が一部の地域を除き未だに活発ではない。農業遺産は、他の遺産（文化遺産、自然遺産など）と異なり、農業という行為自体が遺産になることで農家や地域住民との関りが深い。そのため、地域住民により結成された‘農業遺産住民協議会’など農業遺産関連の住民組織の役割が最も重要である。

参考文献

- 1) 青山島（2018）、濟州（2018）、河東（2019）、錦山（2019）地域における世界農業遺産モニタリング研究報告書